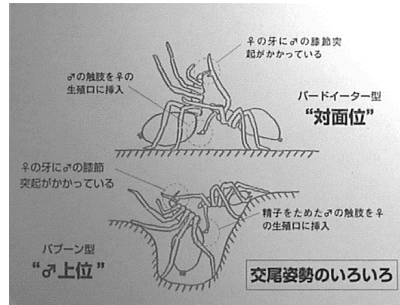


繁殖中、準備中のタランチュラたち

八幡明彦

2003 年 1 月 2 日更新



このリストは、「みるかし姫の館」がもっているタランチュラで、交尾にとりくんでいるペアや産卵待ちの個体たちです。ちなみに、タランチュラの交尾は新月（または満月）の成功率が高い、というのがみるかし姫の館の経験則。

2002 年の当面の成果は、Mexican Red Knee の繁殖成功。2001 繁殖成功の Chaco Giant は、♂が過剰脱皮で死んでしまったので、成体♂お持ちの方のローン申し出、お待ちしております。

＊以下の体長は、オスメス比較の正確を期すため、脚・牙・出糸突起を除く体長をもちいます。



MEXICAN BLOND(*Aphonopelma chalcodes*)

成熟メス・「モンロー」。

ディレップから購入の成熟オス、4.2cm, と 98.7.交尾後、♂老衰(?)死。♀は冬クーリング。

99.5 産卵。

99.秋、今井さん輸入の WC♂と交尾させるが、産卵せず、00.6.脱皮。

♀10 月より 01 年 1 月までクーリング。

01 年 1 月に北海道の ARACHNOMANIA さんより入手の♂成体と交尾。



Greenbottle Blue(*Chromatopelma cyaneopubescens*)

成体メス 体長 約 5cm, フロリダの業者から個人輸入

すでに5名の方からオスの提供を受けるも、交尾に至らずしてオス食い、または交尾に至るが、いまだ産卵せず。オスメスとも交尾は非常に慎重。'01.12 月にも高橋さんより♂の提供を受けたが、交尾成功前に♂が死亡。本種の♂は寿命が短いのも、困難の一因。



Antiles Pinktoe(*Avicularia versicolor*)

成体メス 体長 4.5cm, フロリダの業者から個人輸入

大阪の「げてももの館」から成体オスの求愛あり！98.11.11 交尾に成功、99.1.産卵。

二度目の交尾を行うが、オスの死後、メスが脱皮。

00.6、米国輸入便で亜成体オスを入手。成熟を待つ。

00.10.亜成体♂最終脱皮で不全、3日後に死亡。01年♀も死亡。

Antiles Pinktoe(*Avicularia versicolor*)

成体オス 体長 4cm、上のメスの子が成熟('00.7)。

十分サイズの大きい相手♀を探し中。

01年死亡。Antiles Pinktoe(*Avicularia versicolor*)

WC体長 3.5cm、「成体メス」としてフロリダの業者から個人輸入するも、01年1/29脱皮で亜成体♂と判明(触肢と脱皮がら)。オリジナルの♀と交尾させる予定。

成体オス みる 99CB 体長 3.8cm、鈴木さんからローン。

交尾するも産卵に至らず、01年♂♀とも死亡。



Usambara Orange Baboon (*Pterinochilus sp.*)

成体メス 体長 6cm, フロリダの業者から個人輸入

今井さんのご厚意でアフリカから直輸入のオスと交尾させ、めでたく 98.12 産卵、

99.1 人工孵化。その後 99 冬に死亡。

Usambara Orange Baboon (*Pterinochilus sp.*)

成体メス 田向さんのお持ちの個体をローン。

今井さんアフリカ輸入のオス(上と別)と交尾、00.5 産卵、00.6 自然孵化。

次の♂を待つ。



Mexican Redknee (*Brachypelma smithi*)

メス 体長 7.5cm

メスが体長 6.5 センチのとき、バズさんが大切に育ててこられた個体が成体オスになったのをお借りして、99 ブリーディングに挑戦。オスサイズに圧倒され 交尾成立せぬうちに、オスが死亡。

ジェントルマンルーザー経由でローンしていただいたオスと交尾、00.4 産卵するも人工孵化に失敗。

その後、鈴木さんにローンしていただいたオスと交尾を繰り返すが、00.10 脱皮。再度交尾させる。01♂死亡。その後♀再脱皮。

01.12.でんぱたんちさんから♂をローン。交尾させる。

02.3.14 産卵。

02.4.16 開のう、無事発生中。



Togo Starburst

(*Heteroscodra maculata*)

メス、フロリダの業者から成体を輸入。

SCOPE 東京で購入したオスが交尾前にメスに食われる。2頭目を購入、交尾後、00.6 産卵、00.7 孵化。



Goliath Birdeater(*Theraphosa blondi*)

メス、フロリダの業者から成体を輸入。

オス、川手さんから 99 秋ローン。交尾繰り返し試みるも、挿入成功は少なく、産卵せぬまま、オスが死亡。01♀も死亡。



Chilean Common(*Grammostola rosea*)

(ここでは牙含む体長)

メス1 体長 70mm (リザード氏より入手)

メス2 体長 65mm (G ルーザーより)

メス3 体長 63mm (黒やぎさんよりローン)

メス4 体長 62mm (G ルーザーより'00)

オス1 体長 50mm (トキタさんよりローン)

オス2 体長 40mm (フロリダの業者より輸入 "Red morph")

オス3 体長 34mm (冨永さんよりローン "Phrixotricus auratus"CB として売られていたもの)

♀2×♂1が 成功裡に交尾。♀3×♂1も成功裡に交尾

♂2は交尾に至らず死亡。♀3は第一脚欠のため、交尾が難航、結局死亡。

交尾に成功したので、♂1はトキタさんに、♀3は黒やぎさんにお返しした。

01/4/27、♀2が産卵するも、人工孵化中に卵はカビてダメになった。不完全卵のうだった可能性あり。

01.11.高橋さんよりローンの♂と交尾させる。



Brazilian Black(*Grammostola pulchra*)

メス、動物堂で成体を購入したものを譲り受ける。

オス、フロリダの業者から 98 幼体で輸入。

交尾確認せず。00.6.30 現在、産卵床らしき網をメス作成中。

Brazilian Black(*Grammostola pulchra*)

メス、ぺっとなにて成体オスとともにペア購入。交尾を試みてオスが 食べられ、その後繰り返しフロリダより輸入のオスと交尾。いまだ産卵 せず。01♀脱皮。♂死亡。

01.10.高橋さんからローンの♂と交尾させる。01.10.向畑さんからローンの♂はでん

	ぱたんちさんの♀の元へローン。
	Trinidad Chevron (<i>Psalmopoeus cambridgei</i>) メス、フロリダの業者から成体を輸入。 オス、鶏冠さんからローン。 <u>交尾成功</u>後、6.30 メスが袋状巣を作成、8.5 産卵するが、卵のう不完全で翌日卵食。 ♂が死亡。 01.2.2、再度つぶれた卵のうを作る。外側の糸のカバーは通常サイズで10卵ほど。とりあげて、人工孵化器にうつすが、腐る。 02.3、高橋さんからローンのオスと同居させる。
	Venezuelan Redstripe (<i>Avicularia minatrix</i>) メス、フロリダの業者から亜成体を輸入。 オス、秋山さんからローン。交尾成功後、メスが脱皮。 別オスを今井さんからローン。00.10 月交尾成功。 01.1 月、産卵に至らず脱皮。繁殖不成功のまま、ローン解消、♂は返却。
	Brazilian Salmon Pink (<i>Lasiodora parahybana</i>) メス 体長 7cm、フロリダの業者から成体を輸入。 オス 体長 6cm、フロリダの業者から98幼体で輸入。成体になり交尾を試みるが 成功せず死亡。 オス トキタさんからローン。交尾に成功せず、01 年♂♀とも死亡。
	Chaco Goant Golden Striped (<i>Grammostola sp. aureostriata</i>) メス、フロリダの業者から成体を輸入。 オス、同業者から亜成体を輸入。 オスはネジレ脚の脱皮不全で、右第3脚と左第4脚を欠くが、10 月、<u>成功裡に 交尾</u>を繰り返す。 01.7.10、産卵、卵のうを親任せにする。01.7.30、親が卵食しているのを発見、<u>無事な後期杯</u>を取り上げる。数十卵が孵化。日本初(世界で3人目?)の孵化成功例 と思われる。<u>子グモの餌食</u>いはよく、乾燥にも耐え、非常に飼いやすい種であると判明。2001 年に新種記載され学名がついた。 脱皮後の♀を 01.11.♂と再度繰り返し交尾させる。



Mexican Redleg (*Brachypela emilia*)

メス、小原さんからローン。
オス、フロリダの業者から 99 輸入した幼体が成熟。
00.10 月に交尾成功。'01♂死亡、♀脱皮。♂待ち。



Mexican Flame Knee (*Brachypela auratum*)

メス、沖縄の業者から購入。
オス、鈴木さんからローン。
11 月に交尾成功。01.3 月♂が死亡。
4/22、産卵。人工孵化を試みるが、卵は乾燥して孵化せず。
♂待ち。



Brazilian Black and White (~~*Brazilopelma coloratovillosum*~~ *Nandhu coloratovillosus*)

メス、99 フロリダ・エキスポで購入。
オス、庄田さんからローン。
11 月に交尾成功。♂死亡、産卵の気配なし。01 年に属名変更された。



Straight-horned Baboon (*Ceratogyrus ~~cornuatus~~ marshalli*)

メス、フロリダの業者からWC購入。
オス、フロリダのブリーダー個人からCB幼体を譲っていただく
11 月♂成熟、交尾を試みて数回の同居。
01 年 1/1 産卵。
01.2.1、卵食。散乱した卵を一部回収。すでに脚の生えた後期胚に発生 が進んだものもあり、脚が動いていた。回収分を人工孵化に移し、8 頭が無事孵化。
01.11.脱皮後の♀と、同♂を再度交尾させる。♂が食われる。02.1 現在、テント状巣を構築。産卵か？脱皮か？ 01 年、学名 *cornuatus* は消え、*marshalli* に(Gallon 2001, ♂のみで記載されていた *C.marshalli* と♀のみで 1991 記載されていた *cornuatus* は同種の雌雄と判断されたため)。ペット取引で *marshalli* ♀として出回ったもので元 *cornuatus* にあたらない個体は、*C.brachycephalus* など別モノである。

	Dwarf Rose (<i>Paraphysa scrofa</i>, 以前の学名は <i>manicata</i>) メス、体長 43mm ヴォルフさんからローン。販売時の名は「チリアンローズ」 オス、体長 23mm まるぴん CB'99 が成熟したもの。 '00.11 月～交尾のため長期同居。♂は数ヶ月後死亡、産卵の気配ないので、♀をいったんヴォルフさんにお返しする。
	Cobalt Blue (<i>Haplopelma lividum</i>) メス、フロリダの業者から輸入 WC オス 1、同業者から輸入 WC して成熟したもの 00.12 月、♀に深い巣穴を掘らせ、そこへ♂を導入して交尾成功。産卵せず。 ♀鈴木淳一さんお持ちの WC ♂ 2 フロリダ業者から輸入の WC 01.1 月、交尾を確認。♀は鈴木さんにお返しした。産卵。 01.1 月、♂ 2 は秋山さんのところへローンで送付。
	Sri Lankan Ornamental (<i>Poecilotheria fasciata</i>) メス、フロリダの業者から輸入 CB 成体 オス、国内ショップで購入 CB を鶏冠さんからローン 00 年 7 月より♂は別♀と交尾したが、♀が死亡。 01 年 1 月♀入手。1/29 同居当日に、派手なタッピングしあって<u>繰り返し接触</u>。おそらくこの晩中に交尾したとおもわれる。 翌日、♂が食われる。 01. つぶれた不完全卵のうを水入れに落として放棄。 01.12、完全な卵のうを作る。人工孵化に移すが、02.1 現在発生せず。無精卵だった模様。 02 メスが死亡。
	コソダテヒツチグモ属 B 種@ガーナ産 (<i>Hysterocrates sp.B</i>) メス、国内ショップで WC 成体購入 オス、国内ショップで WC 成体購入 00 年 12 月より♂♀同居。 01.2.1 すこし小さめの卵のうを産卵。翌日、卵食。散乱した卵を回収して人工孵化を試みるも、失敗。 なお、<u>カメルーン産 00.夏入荷の同属 A 種</u>は、持ちこみ腹で 00.10 産卵、自然孵化で 11.30 出のうした。



Santarem Pink Haired (*Acanthoscurria geniculata*)

メス、カリフォルニアの業者から輸入。

オス、フロリダ業者から輸入。

00年1月♂が成熟。交尾を繰り返すも、2月♀が脱皮。

♂成熟待ち。



Mexican Red Rump (*Brachypelma vagans*)

メス、秋山さん CB'98 を黒やぎさんが育てて成熟したもの。

オス、高橋さんローンの国内ショップ'00 購入個体。

01.12.交尾。



Indian Ornamental (*Poecilotheria regalis*)

メス、フロリダのブリーダーから譲ってもらった CB を育てたもの

オス、高橋さんローンの国内ショップ購入個体。

02.4 より同居。その後♂死亡、♀脱皮。

02.11.トキタさん CB を購入したものが成熟♂に。♀と同居さす。

02.12.末 ♀が濃い糸の大きな繭状巣をつくり、03.1.2.産卵。



いま、話題のカップル！！

愛は国境を越えて。。。

ーみるかし姫のブリーディング・プロジェクト◆ー



タランチュラ飼育人口はいずれの国いっても少ないので、同種のオス・メスが 出会う可能性は大変低いといわねばなりません。そこで、ペット仲間同志では、成熟したオス・メスがいたら、他の人にも宣伝して、交尾の相手を探すということになります。ふつう、オスをメスのところに送り届け、交尾が成功したら、子グモ(百匹も生まれることもある)を半々に分ける、というのがルールです。

ストレイトホーンド・バブーン編

メキシカン・ブロンド編

スリランカン・オーナメンタル編

アンティル・ツリー編 11/11 更新

ウザンバラ・オレンジ編 11/11 更新

タイ・タイガー(?)編 1/1 更新

グリーンボトル・ブルー編 1/1 更新

メキシカン・レッドニー編 1/1 更新



ストレイトホーンド・バブーン編

さて、みるかし姫宅のピンクトーは、種が不明のため、なかなか確実な相手が 見つけれられないのですが、身元のはっきり(?)しているオニロク(メスよ)に、相手が見つかりました。 北海道の秋山さんのご好意です。



ストレイトホーンドバブーン ストレイトホーンドバブーン

(*Ceratogyrus cornuatus*) (*Ceratogyrus cornuatus*)

メス@みるかし姫(香港) オス@秋山(北海道)

1998 年 5 月 23 日

北海道からオスが到着しました。新聞をクッション・保温剤にを使って「ゆうぱっく」で 送ってもらいました。サイズで半分、重さでいえば1/10位メスより小柄です。バブーンは そういうノミの夫婦もおると聞いてはいたが。。。一緒にしたとたん食べられてしまった んではお話になりませんので、とりあえずメスに餌をしっかりと食べさせて準備。繁殖用に すこし大きめのケージにメスを移して慣らせておく必要があるでしょう(オスを容器ごと メスのケージにいれてお互いを慣らす、というのが良いようです)。

英文MLに問い合わせしてみたところ、飼育下でのオスは野生より小さいサイズで成熟 することがしばしばで、これが交尾を困難にする事もありうる、という事でした。「でも、交尾を試みてみなきゃ、どうせオスは死んでしまうのですから、やってみる べき」との励ましのメールを数人からもらい、「よし。では、万全を期して」というわけで、オスの逃げ場(メスの餌にならぬよう)を準備しての、繁殖計画を練って いるところです。

6月6日

Geneさんのページから貴重な参考資料を抜粋:

「その後、家のストレートホード(体長3cm弱)が、雄である事が発覚し、JDの提案で、ブリーディングをしてみる。自分は、雄が小さすぎるから、食われると思ったが、マラ、経験者が大丈夫だといっているのだから、とのんきに構える。雌の体長は、雄の約2~2.5倍位に見える。これは、さすがにヤバイと思ったが、JDは、さっさと雄を雌のケージに追い込んでいた。(^^; 緊張して見守る自分。しかし、何も起きない。(^^; まだ、2匹とも、緊張している、とJDは言っていたが自分は、せっかく育ててきたのが食われる。と気が気でなかった。しかし、黙って見守る。すると、雌が、雄に気付く、地面をタッピングをしている。タッピングは雄がするんじゃない? (^^; なんて思いながら見守る。雌は、発情しているらしく、雄の方を向いてひたすらタッピング。しかし、雄は、体格の違いにびびっているようである。と、その時、雄が雌の方を向き、2人で組み合う。が、3秒と持たず、雄が逃げ出す。(^^; しっかりしろ。とおもったが、その後、雌は、狂った様に、タッピングを繰り返 し、雄を誘っているのに、雄は、雌から逃げ回るのみだったので、引き離す。雄は、トレードに出される事が、ほぼ決定したようである。しかし、 何とも平和な交尾であった。(雌の、逆レイプっぽかったが...) ちなみに、雄は、スベルマウエップを作っていたので、時期的には、交尾が出来るはずであったが、なぜか、その雌を嫌っているようであっ た。その後、JDに聞いた話では、この2匹の関係は、兄弟かもしれない、という事だった。その後、JDにハイチアンブラウンの交尾を見せてもらう。こちらは、すごかった。(^^; 雌が、雄に襲いかかり、雄は頑張って下に潜り込み、タッピングをしているのが見えた。 ある程度、強い雄でないと、雌に食われる、というのが分かった交尾であった。交尾は、時間にして10秒弱だった。交尾の後、雄は逃げ切れない様だったので、JDが雌を押さえている間に、自分が雄を元のケージに戻 す。此れは、本当に命懸けな交尾であった。難しそう。(^^;



まあ、何にしても、すごく良い経験だった。やはり、ブリーディングは、経験が無いので、経験者のお手本が、とても勉強になる。少しは、自信 がついたが、自分でやれるかは、謎である。」(Geneさんの観察日記より)

6月7日

初めてオスメスを一つのケージに入れてみる。オスは俊足でケージの天井まで駆け上がり、 いっこうに下に居るメスのところに下りてこない。お互い気づく様子もなし。棒でオスを 下に誘導、いったん接近するが、やはり双方関心なし。不発に終わる。

メスのケージの中にオスを小さいケージごとに入れて、数日置くことにする。これで 双方がその気になってくれることを祈る。

6月13日

オスがたびたびスベルマウェブをはるようになったので、頃合いか。勇気を奮って、オスを取り出し、メスのケージに導入。初めてメスと出会い頭になったところで、前脚をすばやく使ってメスの牙を押さえ、交尾姿勢に入ろうとする。メスも受入れ 姿勢で静止する！ うまく行くか？！とおもいきや、オスは触肢がメスの交尾器に届く か届かないかというところで、さっさと離れて逃げ出す。もう一度、と棒でオスを 追いやってみるが、オスはおびえてぐるぐると壁と天井を走り回るばかり。メスは まだ交尾受入れ姿勢をとって上体をのけぞらせたまま。オスをも食いかねないと思われた アグレッシブな美女が「おいでおいで」してるのに、逃げ出すオコなんて。。。 (でも、出会い頭に一回だけ交尾を試みて、直ちに逃げるとするのは、オスとしては、生存して成功裏の交尾を遂げる確立が高い戦略かもしれない。失敗した交尾の あとで食われてしまったらほんとに目も当てられない: というか、自分の子孫を残せ ない。)

うーむ。やはり、糸を張り巡らした巣上でないと、雰囲気が出ないのかな。という わけで、思い切って、メスをもと住んでいたケージ (糸が張り巡らされたトンネル状の 巣になっている) に戻し、そこへオスも入れてしまう。餌にされないことを祈りつつ。

6月13日第二弾

オスは、メスのトンネルの入り口 (上方に開いている) を探り当てると、前脚を使ってメスを誘い出しました。メスはゆっくり前身を乗り出し、オスはメスの牙を第一脚で押さえ、ちょうど上から巣穴の なかにかがみ込むようにして触肢をメスの下腹部に伸ばします。地上徘徊性タランチュラ のメキシカンブロンドの場合 (前回はそのパターンで失敗) とはかなり違う体位です。しかし、やはり交尾器に届くかどうか、というところで断念。オスはメスを離れてしまいました。

メスがゆっくり動くたびにオスは狂ったように駆け出して逃げようとしします。かわいそう (?) だけど、しばらく一緒にいてもらおう。長い夜のうちには、いつかうまくイクかも知れないものね。

6月13日第三弾

・・・と、おもったら、メスがオスを攻撃！ オスは必死で逃走。メスは確かに 牙をむいて、餌に襲い掛かる姿勢でした。こりゃ、さすがにオスがかわいそう。すぐにオスを救出、今日は別々に寝てもらうことにしました*o*;;

6月23日

その後、なんとか交尾を試みましたが、オスはとうとう、メスのケージの中で、脚を折りたたんで死んでいきました。メスは、その亡骸を食べてしまいました。もし授精に成功していれば、メスが卵を産むための貴重な蛋白源としてオスは 貢献したことになります。あとは祈るのみ。

秋山さん、ありがとう。(秋山さんのコメントはこちら)

8月3日

驚いたことに、あんなに元気だったオニロクが原因不明の死を遂げました。授精していたのかもしれないのに、本当に残念です。[詳細は「オニロクよ！永遠に」のページへ](#)



メキシカンブロンド編

1998年5月23日

大阪のディレップで、メキシカンブロンドのオスを発見、半額以下にねぎって、売ってもらいました。バブーンよりもおとなしい種なので、まずは、こちらの 方から繁殖を試みてみようと思います。サイズはメスの「モンローちゃん」より 一回り小さく、脚がすらっと長い感じ。大きなケージにメスを移し、オスをケージごとその中に入れて、様子を見ています。



5月28日

オスとメスを一緒にケージに入れてみました。オスははじめ緊張しているふうで、メスに触れると体を高く持ち上げ硬直したようになりましたが、メスの方もいきなり襲い掛かる様子はありません。オスは長い足でメスを探り、メスが前脚を振り上げると、オスも前脚でこれに応じ、すばやい動きでメスの牙と蝕肢の根元を前脚にある爪状の突起で押さえこみました。こうしてメスが交尾中にオスに噛み付くのを防ぎながら、腹部下にある雌性器に、(あらかじめ精子をためてある)オスの蝕肢を挿入するわけです。さらに第二脚でメスの前脚を押さえようとしています。オス

は蝕肢をすばやく降り動かし、メスの腹部下にもっていきました。うまく入ったのかどうか、よく見えなかったのですが、メスはやがて動きだすようになり、オスは後足を踏ん張り、前脚でメスを制しようと頑張ったのですが、メスの牙がむき出しになると、オスは離れました。もう一度交尾させようと仕向けてみましたが、両者とも気のないそぶりで、二回目はありませんでした。



6月3日

その後、オスが度々スperlマ・ウェブを作るので、繰り返し、交尾させてみました。触肢の先がしっかり挿入されているかどうか、なかなか確認できないので、念のためです。

8月

さて、モンローはまだ卵のうを作りませんが、ひとつ変わったことがあります。性格が一変したのです。以前はハンドリングしても毛を飛ばしさえしないおとなしいクモだったのに、霧吹きをやるだけで牙をむくアグレッシブな正確に豹変してしまいました。「マタニティ・ブルー」というのでしょうか？

10月

いい加減しびれをきらせて、温度を変えてみたり、床材を厚くしてみたり、いろいろ試みたのですが、卵のうをつくらないモンローです。そんなある日、アメリカのGeneさんの友人の「JD」さんから、メキシカンブロンドの繁殖の成功例はアメリカでも二人しかいない、という驚くべき事実をうかがいました。彼のアドバイスは、気温を下げ、季節の変化を真似ること、というもの。後は「幸運を祈る」。。。と、いうわけで、早速、温度の低いわが寝室に移動。



スリランカン・オーナメンタル編

1998年9月6日

アメリカから個人輸入した「アナンシ」が脱皮がら鑑定で「Poecilotheria striata」(マイソール・オーナメンタル)かもしれぬ、との結果をもらい、困惑していたのですが、同鑑定人の意見では、スリランカ(P. fasciata)もマイソールもごく類似の種で、亜種(ないし地域変異)とされる可能性もあり、CB個体ならスリランカでもありうる、とのこと。触肢の脱皮後は先にはっきりと生殖器が見え、スperlマウェブらしきものも作り、成熟オスであることがわかったので、これより少し大きくなっているスリランカン・オーナメンタルのメス・「虹ちゃん」(香港で購入)と繁殖に取り組むことにしました。

オーナメンタルの繁殖は国内ではあまり例がなく、「むずかしい」と聞いていたのですが、ATS(米国タランチュラ協会)会誌の記事を読むと、「メスのケージに オスを放り込んで待つだけ」と、実に簡単そうな記述。そこで、衣装ケースを改造して大型ケージをつくり、念のためオスのケージをまるごと中に設置しました。数日して、メスがなれたら、オスケージの蓋をはずせば、繁殖用設備の完了です。とりあえず、コオロギを数匹ほうりこみ、メスにたらふく食べておいてもらうことにします。(右写真:ケージごしなので影しか見えないが、大きいのがメス、さらにケージに入った小さいのがオス)

9月27日

さて、2週間後、寝室に置いておいたオーナメンタルのケージで夜な夜なパタパタと音がするので、見てみると、メスがオスの入った内側のケース壁を前脚で叩いて いるのでした。パタパタパタ、パタパタパタ、とりズミカルに。「繁殖のコツ」(ATS 記事)にあるように、オーナメンタルスパイダーには メスの牙をブロックするための第一脚のフックが欠けており、オスは極端に 怖がり、メスから逃げ回ります。そこで、メスの方からこうして「求愛行動」を根気よく繰り返し、オスが怖れなくなるのを待つ、ということらしいのです。

そしてさらに一週間、 ついにケージ内のひとつのシェルターの中で、メスとオスが目と鼻の先まで近づきあっているのを目撃。オスがやっと恐怖を克服したのでしょうか。交尾の瞬間は まだ見れませんが、この分だと知らぬうちに交尾は成功するかも。

10月4日

なんと、オスメスが細い内側ケージのなかに二匹、それも背中合わせでじっとしているのを観察。後背位?! いや、そのケージのスペースが狭すぎて、これでは交尾できないのしょうねえ。外に出てやりなさい。^^;;

10月中旬

がーん。

なんちゅうこと。。。二頭とも♂だった。。。。

んー、ブリーダーを目指す心正しき私にあるまじき不覚。^^;;

いくらオーナメンタルのオスは第一脚のフックを欠くので見分けにくいって言ってもねえ。当人たちも当人たちだよ。一月以上もオス同士一緒にいて、ケンカもせず、求愛行動の真似事までしてるんだからねっ。あんまり仲良さそうなので、このまま複数飼育続けとくことにする。(って、オイオイ)

10月30日

上の失敗談を Gene さんが話したのか(笑)、アメリカのJDさんからオーナメンタルの オスをローンしましょうとの、嬉しい申し出。よーし。こっちには、オスが二頭も いるんだっ。繁殖しまくるぞー。



ストレイトホード・バブーン編 メキシカン・ブロンド編 スリランカン・オーナメンタル編
アンティル・ツリー編 ウザンバラ・オレンジ編 タイ・タイガー(?)編
グリーンボトル・ブルー編 1/1 更新 メキシカン・レッドニー編



アンティル・ツリー編

1998 年 10 月 16 日

大阪の「げてももの館」こと、こはらさんが、*Avicularia versicolor* が成熟オス になったといって、ブリーディング用に送って下さる。この種は、ピンクトーの 中でも、格別美しく、繁殖に成功すれば需要が多いことは確実。オスメスのサイズ 比もまあまあなので、とりあえず両者にどんどん食べさせて、デートの準備に入 った。



アンティルツリー(A.versicolor)♀
「かむみぞ姫」

アンティルツリー(A.versicolor)♂
こはらさんちの「ゆゆゆ」君

11 月 9 日

いよいよ繁殖にとりかかる。メスはコルク入りのパスタケースのなかで巣を作っている、オスを狭い中に押し込むのも危険かと考え、蓋を開放したケースごと、大きなケージに入れて、そこへオスを導入。オスはまず、巣穴の入り口で触肢によるタッピングをして、網ごしにメスへの求愛。ただし、すぐに逃げ出せるように、メスの いるほうにお尻を向けて、後ろ向き姿勢(笑)。メスはすぐにトンネル網から這い出してくて、オスへの受け入れ姿勢をとる。オスはメスの前脚、触肢、牙などを触肢で叩き ながら、なだめつつ接近。触肢を腹部下面へと のぼすが、残念ながらパスタケースが 狭すぎて、メスが十分のけぞり姿勢を取れない模様。しばらくして、オスは、 ケースに入り込みトンネル巣の側面からタッピングするが、これも交尾成功には いたらず。

11 月 11 日

今度は思い切って、メスをパスタケースから取り出して、大きなケージ内に放す。 オスとメスはケージ側面のプラスチック壁で出会うと、直ちに組み合い、交尾 姿勢へ。メスは、なんと後ろ三脚でケージ側面壁に脚を踏ん張り、前二対の脚を空中に上げるといふ、アクロバット姿勢で交尾に応じた！ さすが、ツリースパイダー。

今度はメスが十分のけぞり姿勢を取っている、オスの触肢は確実にメスの 生殖器に挿入された。交互に触肢を挿入しながら、もう一方の触肢でメスの胸板あたり をタッピングしている。

交尾が終わると、オスは速やかにメスをはなれた。

* 99.1.19 アンティルツリーメス「かむみぞ姫」が 卵のうを作りました。大切そうに 触肢と前脚で抱えています。オスは小原さんから貸していただいた「ゆゆゆ」君です。



ウザンバラ・オレンジ編

1998年11月10日

今井さんのところで輸入したウサンバラオレンジが大量にオスになったというので、一頭をブリーディングローンにまわしていただいた。今井さんは一晩一緒にしておいたらメスがオスを食べてしまった、というので、いちおういつでも介入できる準備をして、例の大型ケージ(45cm)内にメスの容器を蓋開放で入れて、オスを導入する方法をとることにする。ただし、これでオスメスがうまく出会わない場合は、メス・プラケにオスをまず導入し、両者にらみ合いの状態で、静かに大型ケージにプラケごと入れて、オスの逃げ場を確保しておいてやる、という方法に切り替える。



ウザンバラオレンジ(*Pterinochilus* sp.)♀「ばさら」 今井さんちの産地直輸入(?)便・ウザンバラ♂

交尾の様子は、[こちらに→ Keepers' Net のチャットルームで実況中継したんだけど...^^;;](#)

1998年12月日、メスがケース内に異様に分厚い糸を張り巡らしたと思ったら、どうやら卵のうを作った様子。普段巣に利用している枝に固定された形で、卵のうを分厚く包む真っ白な糸のシート。良く見ると、メスの腹部が明らかに小さくなっている。これは間違いない。いよいよ、はじめてのタランチュラの 孵化に挑戦っ！

* 99.1.12 ウサンバラ・オレンジの卵のうを開きました。中には脚をゆっくり動かす仔グモたちがっ！

デリカップで作った簡易ふらん器にうつしました(右)。

* 99.1.25 ウザンバラの仔グモたち。 [うろうろ歩き始めました\(写真はこちら\)](#)。^^



タイ・タイガー編

サイズ比較↓(左メス/右オス) 実際比

「食べタラちゃん」と「迷子の小鉄」

1998年11月10日

CB幼体から育てた謎の香港名「タイガーブルー(老虎尾藍蜘蛛)」(その実、*Cyriopagopus* sp.)が、久々に土のなかから

出てきたら、あしながスレンダーボディの雄になっていた。まだ小さいのに。もう一頭いる、タイWCの *Cyriopagopus paganus* cf は、牙抜き体長 65 ミリ。タイガーブルーは 32 ミリ。長さ半分、たぶん体重は 1/10。同じ種類の可能性は高いけど、これでは交尾は無理かも。素性のはっきりしない東南アジア産とあって、同種であることを祈りつつやってみるしかない。そもそもが地中性種で、メスはケージの中で木の幹をシェルターにしている。おそらく自然界では地中で交尾するのであろうから、オスを救出する小細工もムリだろう。ということで、メスケージにオスを放りこみ、様子を見る。

12 月 1 日

数週間オスメスは同居していたが、ついにメスがオスを食べてしまった。ほとんど跡形もなく、残されたオスの触肢がなまなましかった。



繁殖に挑戦しようという方へ



タランチュラのブリーディングについてのATS (米国タランチュラ協会) 機関紙 からの翻訳 (原文:Nigel Carter)

はじめに

各種のタランチュラを一・二頭ずつ集めると、自分の好きな種を繁殖させてみよう と考えるのは自然なことだ。「好きな種」というのは 3 種類の見方ができる。まず、興味深い行動・きれいな色・サイズなどで選ぶことができる。また、仔グモが生まれたらどれほど価値があるか、という選びかたもあり、三番目にこの両方の 組み合わせで選ぶ方法がある。(野生個体に過度に依存しない) 自給的な状況を うながすことが望ましいのは、タランチュラ飼育でも例外ではない。つまり、生まれた仔グモは、つぎの繁殖プロジェクトのために取り引きされ ることにもなるということだ。繁殖のためによい成体をそろえるのには、数千ドルを費やすこともあるということを考えれば、将来の繁殖のために個体 を提供できることは、とても望ましいことなわけだ。

私の意見では、繁殖の成功率をたしかにするは、六頭というのが「マジック・ナンバー」のようだ。二頭のオスと四頭のメスとする。私なら、二頭の成体メスを 一頭のオスと交尾させ、さらに別の二頭のメスを、もう一頭のオスと交尾させる。

これなら、成功裏の交尾を得る公算があり、運がよければ複数の卵のうをえる ことができよう。理想的には、全部のメス・オスが互いに近縁でないのが望ましい が、それも難しい (しかも高くつく) だろう。

ここではタランチュラ繁殖の経験についていくつか紹介する。様々な方の経験 が大変参考になった。Sergio Velez, Darwin Sinam, Joel Ledford に感謝したい。「West Coast Zoological」の Mark Hart は、私の繁殖への興味を持たせてくれた 人で、無料アドバイスをしてくれた。私は専門家ではないが、20 種以上を繁殖 させるという幸運に恵まれたのだ。

交尾についての一般的なこと

当然だが、成体オスと性成熟したメスが必要である。私が最もよく聞かれる質問は、「このメスは、繁殖できるくらい大きい か？」というもの。Sam Marshall は、最近の著書のなかで「オスが教えてくれる」と答えている。つまり、オスを正しい方法で導入してみて、オスの反応を見ることで、オスがメスを性成熟しているとみなすかどうかが分かるということだ。(ATS 編註:これは必ずしもうまく いかない。多くの報告やわれわれの観察では、少なくともある種のオスは、未成熟メスや未成熟オスとさえ交尾を試みようとした。)

導入

同種の成体オスとメスがいて、オスが精子網 (sperm web: 訳註-クモのオスは 触肢が生殖器なので、精子をいったん網の上に出し、それをスポイト状の触肢 の先ですいとる。性成熟したオスがつくるこの特別な網をこう呼ぶ) を作った としよう。どうやって両者を一緒にするか。

オスメスの「準備導入」法が最も有効だと思われる。「ペット・パル」タイプの 穴付き透明しきりがあるケージを用いる。これは大きさの違う二部屋を提供する。人工芝を引いた上に湿らせたバミキュライトをひく。

メスは、シェルターをおいた大きい方のスペースに入れ、オスをシェルター無しの 小さいほうのスペースに入れる。両方に水容器をおき、中仕切りをしたまま 3 日間 待つ。3 日待たないならば、この方法をわざわざとる意味もないだろう。この間に、オスメスともコオロギをたくさん食べさせておく。

メスが成熟している場合、たいてい、両者は新たな巣に馴れて、相手の存在に 気が付くようだ。もしメスが「踊りに行く」準備ができていれば、メスは中仕切り のところで、脚を押し付け、激しくドラムを叩きまくり、オスが動く自分も 動く。オスのほうは、ドラムを叩きかえすか、中仕切りを通り抜ける道を探し はじめる。さらに一日待つ。メスが初めからドラムを叩かず、興味を示さない 場合は、運が悪いということになる。

いよいよ、中仕切りをとる。が、必ずカードか、ピンセットか、ハケを持って、万一メスがオスを餌にしようとした場合には防御をしてやる。私は、野生下の 交尾時間である日没後にこれをするようにしている。昼間にも交尾に成功して いるから、絶対条件ではないが。

メキシカン・レッドニー (*Brachypelma smithi*)

私の経験 (オス三頭とメス十二頭を'97 夏に交尾させた) では、メスは交尾へと 急ぎ、普通は威嚇をほとんど見せない。ドラムをやらないメスは、オスに対して かなり攻撃的になりうる。この場合はタッチ・アンド・ゴーだ。もしあなたの オスが強大な個体だと、心の揺れ動いているメスを、とにかく押さえつけてし まう。もしメスがまったく気がなければ、おそらくオスを食べようとするので 注意する。

以下は、*B.smithi*をはじめて交尾させたときの記録である。

ケージの中仕切りはしてあったが、オスはいつも同様活動的で、メスは 24 時間 仕切りに張り付いたままだった。オスはタッピングしてまわり、ときどき第一脚で地面を強く叩いた。オスが一方の端に行くと、メスも同じほうについていき、同じようにウロウロしているのに気づいた。そしてメスは地面を速く強く叩きはじめた。ここで、二人を一緒にすることにした。オスはメスにまっすぐ向かって行って、メスの前脚を叩いた。メスは触肢を持ち上げ、牙を開いてオスに見せた。オスはメスの下に入り込み、フック(訳註:成熟オスの第一脚にある爪)をメスの牙にかけた。ここまで約一分。オスはメスを垂直に押し上げ、さらに下に潜り込むと、触肢をタッピングしながら、メスの腹をしきりに探りはじめた。私がピンセットを手にもぞき込むと、ひとつの触肢が挿入され、次にもう一つが挿入された。オスはフックをメスの牙にかけたまま、離れようとした。ここで私はオスが逃げるのをピンセットでたすけた。メスは大変攻撃的になり、もしオスが急いで逃げていなければ攻撃をうけたのは確かで、殺されていたかもしれない。

全部で 5 分ほどだった。約二時間後に同じ事を繰り返し、さらに三日おきに二週間繰り返した。はじめの交尾の 6 日後に精子網を作ったので、オスはメスに授精していたかもしれないと思った。

この際の交尾は結局失敗に終わったのだが、数ヶ月後に同じ方法で行ったものはもう少しくまいった。メスは初めての導入の 83 日後に卵のうを作った。残念なことに 10 日後にはメスが卵のうを食べてしまった。他の人から聞いたところでは、卵のうは、摂氏 24 度、湿度 75%で、85-95 日で幼体に成熟するという。

エクアドリアン・ブラウンベルベット(*Megaphobema velvetsoma*)

この種はごく最近にとりくんだもの。現在('97 末)オス一頭・メス七頭がいる。はじめ、メスのうち何頭が性成熟しているかわからなかった。先述のテクニックで、七頭中五頭が成熟していると判明し、オスはまだ健康で、3-5 週ごとに定期的に精子網を張っている。この種はすこし変わっていて、オスが攻撃的メスに追い落とされてしまうので、上のケージ方法もわずかしこ成功しない。Sam Marshall のアドバイスで、バミキュライトと表層土をもっといれて、プラスチックのチューブを埋めてトンネルを作り、メスが 7-10 日間かけて新環境に馴れるようにした。オスは、空気穴を開けたデリカップごと入れて 3 日おいた。給餌のため、毎日数時間オスはとりだした。導入時、オスは数時間じっと硬直しており、一方メスは巢穴から出て、ゆっくりオスの周りを四、五周歩きまわった。このあとで初めて、オスは第一脚をふるわせて、触肢で地面をドラムしはじめた。メスはオスのところに牙を見せて駆け寄った。オスは必死でフックを牙にかけようとし、第一脚でメスの位置をコントロールしようとした。オスはフックをかけ、メスの腹部を触肢で 3-5 分間触った。今日までのすべてのケースで、オスは触肢を片側だけ挿入すると、離れ、時速 100 キロでケージから逃げだそうと駆け出した。

卵のう形成と仔グモの出のうに関するデータは持っていないが、数ヶ月後にはご報告できることを期待している。初めのメスは 97 年 10 月 10 日に交尾し、現在大量に食べてかなり太ってきている。

<訳註:筆者にその後を尋ねたところ、この *M.velvetsoma* の卵のうは 孵化しなかったとのこと。>

アンティル・ツリー(*Avicularia versicolor*)

これも最近やりはじめた種である。交尾については Joel Ledford のアドバイスに感謝する。

樹上性種は、上記の安全策を用いるのに少々困難がともなうことがあるが、幸運にも、樹上性種は普通あまり攻撃的ではない。私の唯一の経験だが、*A.versicolor*は、他の *Avicularia* よりもいくらか 攻撃的なようだ。

私のオスは、精子網を週に三回張ったようだった。メスは、脱皮八週後で、コルクの空洞の内外にチューブ網をさかんに張っていた。オスをデリカップに いれてメスのケージ内に3日間入れておいた。デリカップを開けると、オスは メスのチューブ網にとんでいき、メスはオスに向きなおった。両者はセレモニー もなく15分間くらい交尾した。離れると、オスは とても素早く退散したが、再度 の交尾を考えたらしく、また25分ほど巣の中に消えた。そして、こんどは時速200キロで飛び出してきた。四時間後に、オスはなんとまた精子網をはった。交尾はさらに五日間で五回繰り返され、交尾ごとに新しい精子網が作られた。

32日後にメスは卵のうを作り、今日で5日がたったところだ。30-40日したら、卵のうを取り除くつもりだが、これは、それ以前の除去は孵化の可能性が 低くなるとの Joel の意見による。のちほど報告したい。

<訳註:筆者に尋ねたところ、その後の経過は以下の通り。

23日後に卵のうを取り出す。卵の状態よし。胚発生のはしはまだみられず。

さらに21日後に後期胚になる。

19日後に第一令幼体に脱皮。

11日後に第二令幼体(捕食幼体)に脱皮。全部で93個の卵のうち、84個だけがこの段階 の幼体にまで育った。>

オーナメンタル・スパイダー各種(*Poecilotheria spp.*)

Poecilotheria 属については、一般に交尾は簡単だ。メスをできるだけ 大きいケージ(20-30ガロン・タンク)に入れ、1週間から10日でメスが落ち着くのを待つ。私は、大きなコルクの空洞(または同種の構造物)をいれて、バミ キュライト・ピートモス一対一の床材を10cmほど敷く。

メスが落ち着きようにみえたら、オスをほうり込んで一ヶ月待つ(!)。もし繁殖用のメスが一頭だけなら、オスが死ぬまでただそのまま待つ。たまに オスが食べられてしまうが、たいていは老齢で死ぬようだ。私の記録は、いま のところ、*P.fasciata*(スリランカオーナメンタル) オスを2月22日に 導入して6月12日老衰(?)死。もしメスが複数いれば、一ヶ月ずつオスをローテーションすればよい。

私は *Pregalis*(インディアン・オーナメンタル)で同じ事をして、オスは三頭のメスと一ヶ月ずつ過ごして二ラウンド目である。ただ週に最低二回、コオロギを腹一杯食わせておくこと に気を付けている。メスで初めて卵のうを作ったのは、オスを取り出して62日後だった。*Poecilotheria*属の交尾は他の種と異なっており、興味深い。いつも夜中にメスは巣から出てくる。オスメス双方が、容器の壁でドラミングをする。それからメスは、オスが逃げ出す地点までゆっくり近づいていく。長 ければ、これを五時間も繰り返す(*P.fasciata*)のを、私は観察した。私はこの行動を二週間近く見たが、その後メスは巣に戻って出てこなくなった。卵のうづくりを促すために、(モンスーン期が近づいている、というように) 毎日巣にやさしく霧吹きをしてもよい。びしょびしょにしないように気を付け、換気をよくして摂氏24度を保つ。

*P.fasciata*については、97はじめに次のように分かった。卵のうは、求愛行動の中断した45-55日間のうちに作られる。私は35日後に卵のうをとり 出したが、そのときにはすでに半数の卵が孵っていた。45日には、全て孵化した。61日目に最初の第一脱皮があり、70日で全て脱皮した。この間に、黒く なったりカビが生えた25個の卵を取り除いた。第二令の餌をとる仔グモへの 脱皮は、85日目に始まり、88日目に完了した。

卵の孵化

メスが卵のうをつくった 20 日後以降に卵のうを取り上げること。この間に、卵は互いに離れ、母グモは必要な卵のうの回転を行う。(編註:ATSは、卵のうを直ちにに取り上げ、卵のう回転は手動で行う。これにより卵の生存率が減るかどうかは確かめられていない。) 母グモは、大きなプラスチック・スプーンか、ハケで卵のうから引き離すことができる。

必ず手袋(滅菌した手術用が良い)をして次の作業をする。デリカップを消毒して簡易孵卵器をつくる。非常に細かい穴を針で上部と側面にたくさん開ける。底に湿らせた吸水性の紙を敷き、強い輪ゴムでパンストの切ったものを固定し、ゆるいハンモック状にする。

注意深く卵のうを切り開き、卵をハンモックの上にこぼす。黒や灰色になった卵はつぶさぬようにピンセットでそっと除く。デリカップに蓋をして、摂氏 24 度に保つ。毎日チェックし、紙が乾いていないこと、ハエが入っていないことを確認する。ハエは「死のキス」を意味するので、デリカップの穴はじゅうぶん小さいものとしておく。

発生の第一段階は、頭胸部と脚である。それらが卵の外周部に見えるようになる。しばらくすると、孵化を経て後期胚は「脚の生えた卵」のようになる。後期胚の反対側には、次に発生する出糸突起を探することができる。この後期胚期は、2-3 週 続き、ほとんど動かない。やがて濃い色にかわり、一令幼体に脱皮する。

ここに出てきたのは、成体クモを黄色く小さくしたようなもので、よく動く。この時点では幼体はまだ未成熟で捕食できないが、腹部に貯えられた卵黄で育つ。観察したところでは、幼体は水を飲めるので、注意深くストッキングに霧吹きし、水滴がいくつかできるようにする。約二週間後、色が濃くなって幼体は第二令に脱皮する。数日後には、適当なサイズの餌をあたえることができる。

目安として、この段階で *Brachypelma* の第 2 令幼体は、レッグスパン 6 ミリほどで、*Theraphosa blondi* は 25 ミリほどにもなる。

繁殖を試みるか、幸運にも購入した野生成体が卵のうを作った場合、この記事が参考になればさいわいである。

ニジェール・カーター (Nigel Carter)

The Salk Institute, La Jolla, California USA

(American Trantula Society "FORUM Magazine" Vol.6 No.6, Nov/Dec-1997 より 抜粋)